

遊べるクラフト 川崎区を走る鉄道と川崎駅前の変遷

用意するもの

定規、粘着テープ、接着剤(ペーパーボンドなど)

あると便利なもの

はさみ、定規

注意

- ★はさみを使う時は、じゅうぶん注意してください。
- ★紙や接着剤を使いますので、火の近くでの組み立てはさけてください。

組み立てのポイント

“ゆっくり、落ちついて、ていねいに”

- 各パーツの切り取りは、ミシン目に合わせてていねいに切り離してください。
- はさみを使って切り取ると、よりきれいに仕上がります。
- のりしろの山折り部分は、あらかじめ先の尖った物で折り目を入れ、軽く折り曲げておくと貼りやすいです。
- パーツを貼りつける時は、しっかりと接着するまでしばらく指で押さえましょう。
- 折り目に定規を当てると真っすぐ折れます。

完成予想図と各シート内容を確認してください。各パーツは、1パーツごとにていねいに切り離しながら、のりしろ部分に接着剤(ペーパーボンドなど)をつけ、図の順番どおりに、組み立てていきます。

ノマキューブの組み立て方

- 1 1~4を箱状に組み立てます。
- 2 ●と●、▲と▲、■と■を粘着テープでつなぎます。
- 3 組み立てあがったら、白い4面にまたがるように、マジックなどであなたの考えた鉄道の絵を描いてみましょう。
- 4 キューブを動かして色々な絵を展開して楽しんでください。

カライドサイクルの組み立て方

- 1 山折りと谷折りを点線に沿って折ります。
- 2 「う」～「く」の裏にのりしろ①～⑥を貼ります。
- 3 ゆっくりとていねいに曲げてのりしろ①、②に「あ」、「い」をかぶせて貼って輪にします。
- 4 外から中心に向いたり中心から外に向けてくるくる回して色々な時代の風景を楽しんでください。

川崎区を走る鉄道（ノマキューブ）



写真提供：神奈川臨海鉄道株式会社
撮影場所：日本触媒千島工場付近（川崎区千鳥町）

■神奈川臨海鉄道

昭和38年（1963）年に設立された神奈川臨海鉄道は、川崎区塩浜町にある川崎貨駅を起点に、浮島線、千鳥線、水江線があり、京浜工業地帯の石油化学製品を中心とした鉄道貨物輸送を行っています。



写真提供：日本貨物鉄道株式会社
撮影場所：梶ヶ谷貨物ターミナル駅（宮前区野川）

■日本貨物鉄道

川崎区内では、東海道線や南武支線の旅客線に並行して貨物支線が敷設されており、多くの貨物列車が運行されています。

写真（右）のEF210形式電気機関車は、「ECO-POWER 桃太郎」の愛称で親しまれています。



協力：日本貨物鉄道株式会社
撮影場所：渡田踏切付近（川崎区鋼管通）



写真提供：京浜急行電鉄株式会社
撮影場所：港町駅（川崎区港町）

■京急電鉄

明治32（1899）年に、関東初の電気鉄道「大師電気鉄道」が、川崎大師への参詣客の輸送を目的として六郷橋～川崎大師間に開通。同年、「京浜電気鉄道」と改称し、

明治38（1905）年には、品川～神奈川間に全通。現在の京急電鉄の前身にあたり、東京都内と川崎エリアを結ぶ重要な通勤路にもなりました。



協力：東日本旅客鉄道株式会社
撮影場所：小田踏切付近（川崎区小田）

■東日本旅客鉄道

当初、南武線は、多摩川で採取される砂利輸送を目的に設立された民間鉄道でした。昭和5（1930）年3月に開通した南武支線は、尻手・浜川崎間をつなぎ、主に平日における沿線の工場への通勤に利用されています。また、平成28年（2016）3月には、川崎区小田栄に「小田栄駅」が開業しました。

また、平成28年（2016）3月には、川崎区小田栄に「小田栄駅」が開業しました。

川崎駅前の変遷（カライドサイクル）



「川崎停車場前（五姓田義松画）」（明治30年頃）
所蔵：神奈川県立歴史博物館

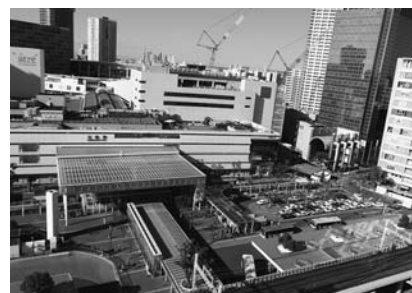


市役所付近の焼跡（昭和20年）
写真提供：川崎市平和館



川崎駅前展望（昭和32年）
写真提供：川崎市まちづくり局

明治5（1872）年、新橋～横浜間に陸蒸気と呼ばれた鉄道が開通したその年に、川崎駅は設置されました。明治末期から大正にかけて多くの工場が川崎に進出したことなどにより、川崎駅は、工場働く人々をはじめとした多くの人々に利用される駅になります。しかし、昭和20（1945）年4月、川崎駅周辺は大空襲に見舞われ、市街地のほとんどが焼け野原になりました。戦後間もなくして川崎駅周辺は復興し、昭和30年代には、県内初の駅ビルが誕生するなど、賑わいを見せていきます。昭和42（1967）年、京浜急行の線路が高架化されることで交通の利便性が図られ、駅前周辺には、さらに繁華街が広がりました。その後も、大規模な整備等も行われ、活力と魅力あふれる拠点として、川崎駅前は発展を続けています。



再整備後の川崎駅東口駅前広場（平成28年）
写真提供：川崎市まちづくり局